

今月のトピック ～ 「しつけ」って難しい・・・ ～

こどもが食事中に立ってしまいます。座って食べてほしいけど・・・あなたならどのような声かけをしますか？

Aさんの場合

怒って言うことを聞かせようとしています。



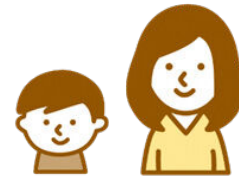
立たない！
ちゃんとしないと
怒るよ！

「怒られるか、怒られないか」ということが基準
になってしまいます。

こどもが危険なことをしているときは毅然と叱ることが必要ですが、怒ったり暴力をふるったりして言うことをきかせるのは「しつけ」ではありません。「〇〇しない」ではなく、「〇〇しよう」という肯定的な言葉で伝えてみましょう。
幼少期に最も大切な親子の関係をしっかり安定させ、親の行いを見せながらしつけができるといいですね。

Bさんの場合

してほしい行動を言葉で伝え、少しでも座れたら褒めます。



椅子に座ろうね。
食べるときは
座ります。

根気がいることですが、長い目で見ればこちらの
ほうが身についていきます。



氷川町こども家庭センター ☎0965-62-3456



町民文芸

投稿先 〒869-4814 氷川町島地642番地 企画財政課宛（毎月5日必着）

短歌

水かけのつぼみ膨らむ「花咲いて」
夕陽傾く初夏の暮れ

西野津 古崎 栄子
異常気象か氷川町の町鳥ツバメの
飛来が心なしか減少の様

西上宮 廣瀬 小亀
わが町の立神峡の入口に
涼を呼ぶごとアガパンサス咲く

新村南 濱田 たみよ
コロナ病浅きねむりに夢を見た
戦争はだめ絶対やるな

西野津 古崎 スエノ
地下水を引いてほどよき勾配の
ソーメン流しにはしやぐ老たち

西上宮 廣松 真実子
炎天の阿吽の像よ地の底の
水脈の青きを踏みしめたまふや

俳句

北野津 井田 道寛
そよ吹くやさぎ波揺れる青田かな

西野津 古崎 栄子
夏雲や蘭草青々波打てり

西上宮 山下 環
庭先の雑草だけは熱中症に強い

西上宮 廣瀬 小亀
百才や入院五日春に往生

西野津 古崎 スエノ
体温越ゆ危険な暑さ西瓜食ぶ

西上宮 廣松 真実子
ででむしや太古の渦を背負ひ這ふ

北野津 井田 道寛

『金閣寺燃ゆる』

三島由紀夫「金閣寺」から その10
法道寺 本田 花風

今年、三島由紀夫没後50年の2020年のこの年に、折しも内海健氏の同名の小説が大佛次郎賞を受賞し紙面を飾った。精神科医が金閣寺に業火に葬った青年僧と、45歳で割腹による死を遂げた天才作家の三者が邂逅となった作品である。三島が肉体を鍛えることにあれほど執着したのか。なぜ、異様な死を選んだのか。内海氏によれば三島を生涯苦しめたのは、現実・他者と自分自身との「離隔」、
「実は自分は存在していないのではないのか」という生きている実感の薄さだった、としている。
だからこそ、三島は万巻の書を読み、卓越した知性を駆使し「言葉で構築されたリアリティーの代替物」を作り出さざるをえなかった。三島の行動を「時代錯誤的だ」という感覚は持ったと思いますが、馬鹿げたことだという風に受け取ることができません」と市谷駐屯地事件を語っている。
『仮面の告白』は自叙伝的小説で自身の生い立ちが深く描かれ、ローマのキリスト者・セバスチャンが半裸で木に縛られ矢を受ける殉教図に、性的興奮を覚え初めて自慰する様子がある。
私は幼くして母から祖母（祖母は名流の出自を誇り、氣位が高く、その猛烈なヒステリー発作には、家人の誰も逆らうことができなかった。生まれてすぐに孫の三島を自室に引き取り、実に十三歳になるまで、その膝下から離さなかった。）は奪い取って育て、病弱な私を悪いことを覚えさせないために近所の男の子を遠ざけ近所の女の子のうちから選んだ三人の女の子だけが友達だった。遅しい男への執着から生まれた生い立ちが、後のポディビルやボクシングなどへと自分を駆り立て、行くことになる。幼年時代からの自分の姿を丹念に追及する根底がそこにある。

ワオクラブで「子ども人権教室」を開催しました

氷川町生涯学習課では、小学生を対象に、ワオクラブ（みんなの輪、和、話）という事業を実施しています。最初に、自分や友達を大切にすることを育む人権学習を行います。その後、体験活動を行います。第1回を6月28日④に氷川町文化センターで実施しましたが、児童18名と保護者4名の参加がありました。はじめに、人権学習として「いのちをいただく」というDVDを視聴して「命」について考えました。子どもたちの感想としては、「命をいただく」ということは、命を1つ失うということだから私も食べる時は「いただきます」を言うってから食べようと思います。



第2回は10月に実施する予定です。詳しい内容については、学校を通してプリントを配布します。児童や保護者の皆さまの多数の参加をお待ちしています。



人が尊重され、
生きがいを感ぜられるあたたかい町

人権啓発コーナー

問 生涯学習課 ☎0965-52-5860

毎月11日は人権を確かめあう日です

人権に関する動画を放映します。
皆さんの参加をお待ちしています。

- テーマ 「気づきにくい偏見と差別」
- 日 時 9月11日(木) 13時30分
- 場 所 氷川町文化センター ロビー

八火図書館だより

☎0965-62-3489

新着図書紹介

■ 一般書

暦のしずく / 沢木 耕太郎
マイ・ディア・キッチン / 大木 亜希子
恋恋往時 / 温 又柔
純喫茶図解 / 塩谷 歩波

■ 児童書

ねずみくんとチョコレート / なかえ よしを
少年とクスノキ / 東野 圭吾
もりのあさ / 出久根 育
よどみ 銭天堂番外編 / 廣嶋 玲子

おすすめ図書

C線上のアリア / 湊 かなえ

両親を亡くし、叔母のもとで育った美佐。叔母が認知症になったと知り、美佐は、叔母の家を片付けるなかで、開かずの金庫を発見する。そこから明らかになる、家族さえも知らなかった叔母の過去とは・・・？

日中はまだまだ暑い日が続いていますが、暦の上では初秋となり朝晩は少しずつ過ごしやすくなってきました。

これからだんだんと深まっていく秋の気配を感じながら、本を片手にゆっくりとくつろぐ時間を過ごしてみませんか？



「敬老の日
読書のすすめ 2025」

今年も敬老の日に合わせて、読書推進運動協議会が選定した本を展示しています。読書は年齢に関係なく楽しめて、新しい発見や感動に出会えるものです。ぜひ、気になった本を一冊手に取ってください。

本町在住の井芹道一様より

-世界から熊本はどう見られていたのか-

『英字新聞に見る熊本の半世紀』

井芹 道一 / 著 発行：熊本日日新聞社
を寄贈頂きました。ぜひ、ご利用ください。

